

# 家庭用ワークファニチャーの開発研究

平田 俊也・渡辺 哲夫・鶴田 孝夫・浅川 武

## The Development and Study of Furniture for Hobby and Work

Toshiya HIRATA・Tetsuo WATANABE・Takao TSURUTA・Takeshi ASAKAWA

### 1. はじめに

昭和60年度から、引き続き“家庭用ワークファニチャーの開発研究”をテーマに、本年度の研究をおこなった。昨年度の開発研究では、収納機能に関して問題を残したところがあり、本年度はそれもふまえて、使用材料から再検討したものについて開発研究をおこなった。

### 2. 概 要

本年度の大きな特徴は、ノックダウン形式で、家具自体を構成する個々の構成パーツを箱状にしたことである。箱状にすることによって、小さなスペース（空間）をも効率的に活用することができる。

大きさについては昨年同様、半畳程度の占有スペースで考え、作業スペースと収納スペースを上下に組み合わせることにより、スペースの有効利用を再検討した。

専用と汎用については、ノックダウン形式の付属パーツの選択・取り付けにより、趣味の多様化に対応でき、趣味個々の専用として使えるよう考えた。

昨年度は、生活に順応させる（とけ込む）ための介在物としての家具をと考えたが、本年度は“新しく部屋の中に持ち込んだ家具”が、従来からの家具・調度品と調和するように表面材・面材の材質・塗装（色）の展開をして、何種類かの組み合わせの中から、希望に合うものが選択できるよう、もう一步進めて検討してみた。

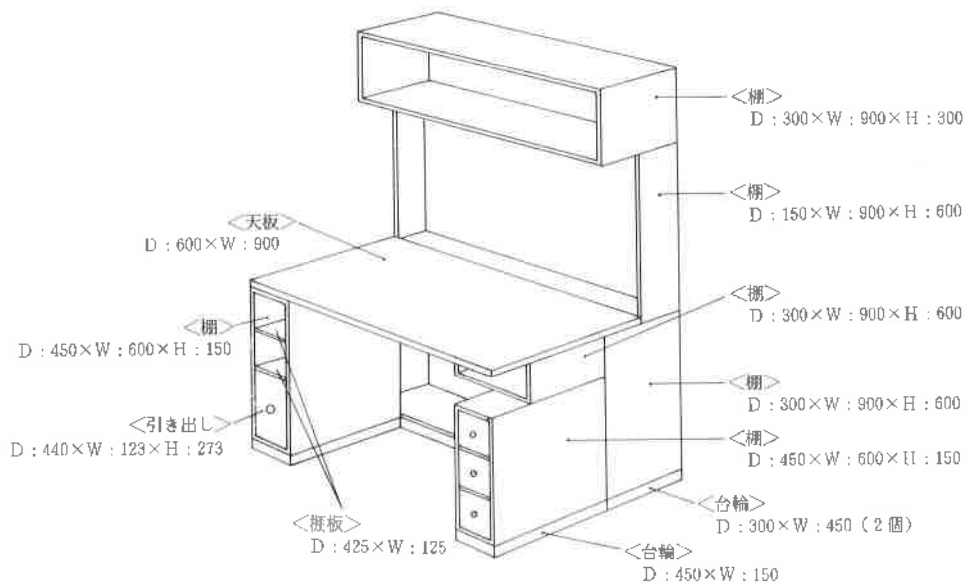


図1 組み立て例

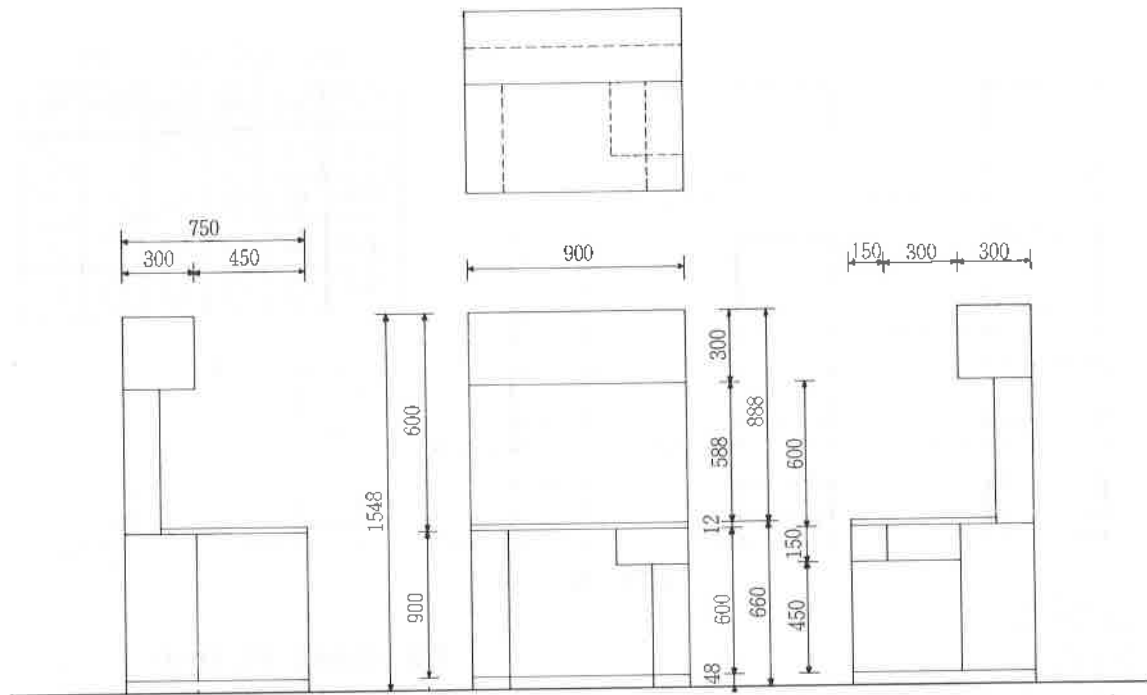


図2 組立例寸法

### 3. 仕様

床面においてW=900、D=750の専有面積で、高さを選擇するパーツによって、任意に設定できるという基本を持つ。

書く(描く)、彫る、削る、貼る(接着)、切る等のいくつかの作業をする“模型作り”という趣味のひとつを規定した一例を図1に示す。

#### ①棚

図3に示すよう幅方向に150, 225, 300, 450, 600, 750, 900の7種類、奥行方向に4種類、高さ方向に3種類の寸法設定をしたので、この中から必要な寸法の棚を選択する。使用材は12mm厚のパーティクルボードで面材のみムク材を使用する。

#### ②天板

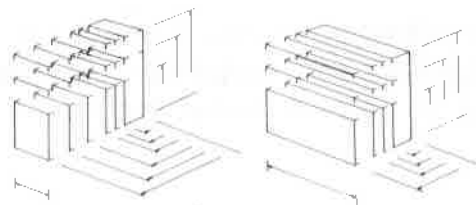


図3 棚

寸法は図4に示す。仕様については、面材はムク材を使用し、甲板部に樹脂板、パーティクルボードのウレタン塗装を施したもの、ゴム質のものを使用する。

#### ③引き出し

寸法は図5 表3に示す。使用材は底板のみシナベニヤを使い、他の部材(鏡板を含む)はパーティクルボードを使用する。

#### ④台輪

寸法は表4に示す。使用材は合板

#### ⑤棚板

寸法は表5に示す。面材にムク材を使用し、棚板本体は合板とパーティクルボードの貼り合せで両面仕上で使用する。

表1 棚寸法

h \ W	150	225	300	450	600	750	900
300	⊖	⊖	⊖	⊖	○	○	○
450	⊖	⊖	⊖	⊖	○	○	○
600	⊖	⊖	⊖	⊖	○	○	○

⊖印は奥行 D: 150~D: 750

○印は奥行 D: 150~D: 450

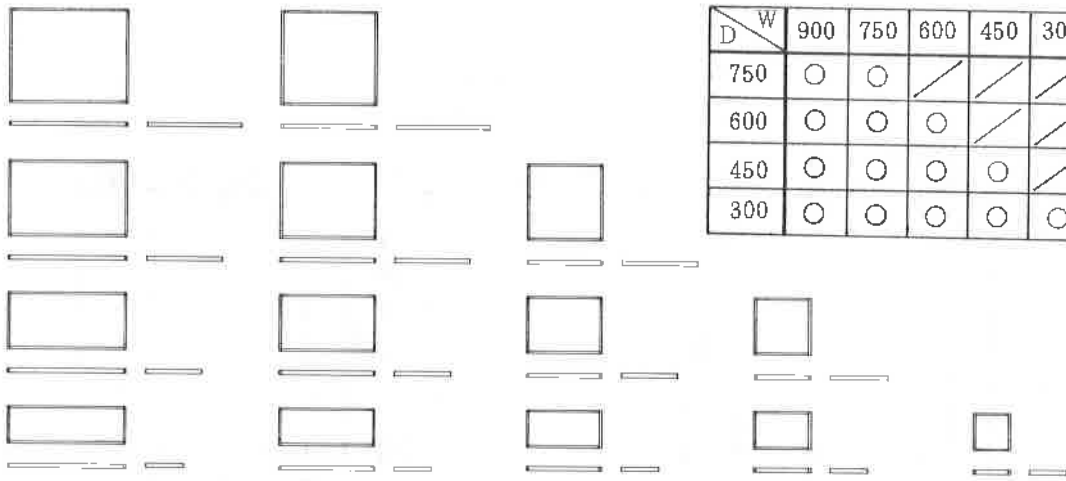


表2 天板寸法 t : 24

D \ W	900	750	600	450	300
750	○	○	/	/	/
600	○	○	○	/	/
450	○	○	○	○	/
300	○	○	○	○	○

図4 天板

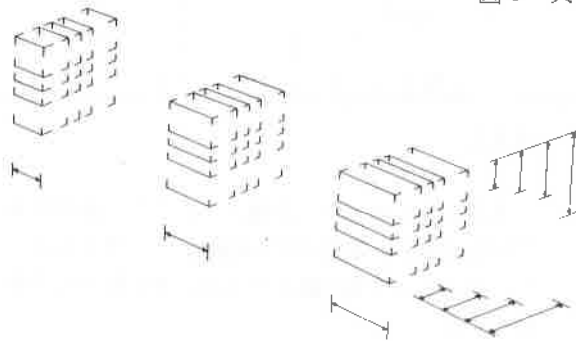


図5 引き出し

表3 引き出し寸法 (外寸)

D \ h	123	198	273	425
140	○	○	○	○
215	○	○	○	○
290	○	○	○	○
440	○	○	○	○

表4 台輪寸法, h : 48

D \ W	450	300	225	150
750	○	○	○	○
600	○	○	○	○
450	○	○	○	○
300	○	○	○	○

表5 棚板寸法, t : 12

D \ W	125	200	275	425	575	875	1175	1475	1775
425	○	○	○	○	○	○	○	○	○
275	○	○	○	○	○	○	○	○	○
200	○	○	○	○	○	○	○	○	○
125	○	○	○	○	○	○	○	○	○

#### 4. おわりに

昭和60、61年と2年連続の開発研究をおこない、使うということ、収納するという事について、こまかく検討したものができた。ただ対象と考えた趣味が多岐にわたるため、それら全部に満足し

たものが得られたかどうかについては気がかりである。

今回の開発研究したものが、すぐ製品化と考えるには問題があるが、本県家具業界への商品開発活性化のための提示となれば幸いである。